

(様式1)

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・従来の理念に「地域とのつながり」という視点が加わるよう、昨年話し合いで以下の通り理念の見直しを行った。 「笑顔で仲良くゆっくり、思いやりを持って、その人らしく暮らす」「住みなれた町で、笑顔あふれる雰囲気、ゆっくり、その人らしく暮らす」	
2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・朝の申し送りなどの場で、随時職員全員で唱和し、理念の実現に向け職員一丸となって努力している。	・新人職員に理念の成り立ちについて説明する機会を設けたい。
3	家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	・毎月家族宛に発行しているさくら通信に理念を記載し理解を求めているようにしている。	・利用者が地域の一人として暮らしていけるよう、地域の方々に、様々な方法で呼びかけていきたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。事業所は地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	・日常的には敷地内の有料老人ホームの利用者との交流のみに限られがちだが、いつでも誰でも気軽に立ち寄れる環境は整えている。 ・近隣の老人福祉センター主催の行事に参加したり、地元の商店とのつながりを深めたりすることで地域活動を行っている。	・認知症ケアのノウハウを地域に還元していく機会が持てるよう人材を育成していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>・外部評価の結果を受け、生活歴を含むフェイスシートの様式の見直し、ソファの設置などを行った。</p>	<p>・去年指摘を受けた災害対策について、地域の協力を得ながら進めていきたい。また、同業者との交流があまり行えていない状況なので、今後も努力していきたい。</p>
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・外部評価の結果を運営推進会議の議題としてあげ、委員の方の意見をいただく機会を設けた。</p>	<p>・職員や委員の交代などで、評価への取り組みが途切れてしまわないよう留意したい。</p>
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>・定期的に市の担当課に足を運び、報告や情報交換を行っている。特に困難なケースの場合、市と連携を取りつつケースワーカーと職員、ご利用者が面談する場も設けている。</p>	
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>・家族と疎遠になっている利用者や財産管理上の問題を抱える利用者が増えてきており、制度について学ぶ必要が生じてきている。</p>	<p>・制度を実際に取り扱ったことのある方や有識者から運用上の情報を得ていきたい。</p>
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>・個々の職員へのOJTにより職員の人権意識を高める努力をしていると同時に、職員がストレスを抱え込まないように随時話し合いを行っている。</p>	<p>・高齢者虐待防止読本を活用しているが、職員の交代などがあったため、再度勉強会を開きたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		<p>・ご家族に担当以外の職員の紹介を行う機会を増やしたい。</p>
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>・苦情受け付けのポストがあまり活用されていないので、手紙やアンケートなどの方法で、家族の意見を採り入れる努力をしていきたい。</p>
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16</p> <p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・異動があった場合、担当者間の引き継ぎを十分に引き継ぎ、極端にサービスの質が変化したり、途切れたりしないよう配慮している。</p> <p>・新人が着任した場合、業務の手引き・OJT表などに基つき一定期間の研修を行っている。</p>		<p>・この一年間職員の入れ替わりが多く生じたため、業務マニュアルやOJTの重要度がより一層高まった。業務が正しく伝承されるよう今後も工夫していきたい。</p>
<p><b>5.人材の育成と支援</b></p>			
<p>17</p> <p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・職員の勤続年数に応じ、各種研修に参加する機会を設けている。</p> <p>・資格取得希望者にはその為の支援を行っている。</p>		<p>・職員の入れ替わりのため以前は行っていた職場内でのテーマ別学習会が開けなかった。これからの課題としたい。</p>
<p>18</p> <p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>・他事業所との相互交流は現在の所あまり行っていない。他事業所との情報交換はケースワークなど実務において接点を持つ場面をチャンスにするよう心掛けている。</p>		<p>・ケースワークなどで協働をはかった時の付き合いを、その後の相互交流に結びつけていく。相互交流は昨年の外部評価の指摘事項でもあり、より一層努力していきたい。</p>
<p>19</p> <p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>・個々の職員が置かれている背景が多様化しており、管理者が個別に対応するだけでは不十分になってきている。</p> <p>・管理者や現場職員のみで解決が難しい場合、運営者に随時報告、相談を行っている。</p>		<p>・運営者とよく協議し、職員のバーンアウトを防ぐための取り組みをしていきたい。</p>
<p>20</p> <p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>・勤務態度・実績・取り組みへの努力を総合的に勘案して人事考課を行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・入所希望者から利用相談を受けた後、ホーム見学や実態調査などの場を利用してインテーク面接を行っている。又、随時電話相談も受付している。</p>	
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>・利用相談受理後、病院や自宅にて実態調査を行ってニーズの見極めを行っている。その過程で関係機関やケアマネージャーとの連携を密にし他のサービス利用の可能性も検討している。</p>	
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>・馴染みの品の持ち込みを推奨したり、在宅での生活習慣や生活歴の聞き取りをすることで、その人らしい生活がホームでも継続して行えるよう配慮している。</p>	<p>・調度品が少なく殺風景に見えるとの指摘を受け、ホーム内にソファを設けたり、草花のプランターを増やしたり、潤いのある空間になるよう努力している。このような取り組みを今後も継続していきたい。</p>
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>・利用者の気持ちに寄り添い、訴えを傾聴し、互いに共感し合いながら、生活を共にするパートナーとしての役割を果たすよう努力している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・家族の考えや意向を常に確認し、可能であれば利用者の生活を支える一端を担って頂けるようお願いしている。		・ホームの行事などご家族と職員が共同作業出来るような機会を作っていきたい。
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・入所をきっかけに家族関係が修復されていったケースや、疎遠の家族と連絡が可能になったケースなどがあつた。		
27 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・希望により自宅や知人のいる場所に出向く機会を設けている他、手紙や電話などの手段で交流を保てるよう支援している。		
28 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・仲の良い同士で共に過ごせるような生活空間を作っている他、一人になりがちな方については、職員が仲立ちし人的交流が保てるよう支援している。		
29 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・退居先の事業所に必要な情報提供を行い馴染みの暮らしが途切れないよう支援している。退居後も家族からの相談には入居中同様に応じている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1.一人ひとりの把握</b>			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>・定期的に嗜好調査を行っている。</p> <p>・生活上の希望や意向を実現していけるよう、訴えを傾聴し利用者の望む生活が出来るよう支援している。</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>・入所前の実態調査で生活歴を把握している他、入所後も利用者本人や家族から得た情報により利用者の歩んできた人生について理解を深めるよう努めている。</p>	<p>・生活歴の記入欄のあるフェイスシートを整備した。</p>
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>・利用者一人一人の生活パターンを24時間にわたって観察し、その中でその利用者にとって力となりうるものを全体的に捉えつつ、その人その人に合わせたケアを展開している。</p>	
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>・介護計画の原案作成時にカンファレンスを開催し利用者の意向を取り入れるようにしている。面会や電話連絡などの場を利用して家族の意向を伺うようしている。</p>	<p>・家族のカンファレンスへの参加を呼びかけていく。</p>
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>・新規利用者については、おおむね入所2週間後に暫定的な介護計画を立案している。</p> <p>・その後、3ヶ月に一度、または利用者の心身の状態に大きな変化があった場合、介護計画の見直しを行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・ケース記録に個々の生活状況を記入している他、特記事項は業務日誌に転載し情報を共有している。その他介護計画に基づく別紙様式を補助的に使用している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
36 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・外泊や一時帰宅などに関し家族と連携を取りながら柔軟に対応している。 ・家族と利用者がゆっくり過ごせるスペースが居室と面談室しかないのが現状である。		・居室と面談室以外に利用者と家族がくつろいで過ごせるスペースを検討したい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
37 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・歌や楽器などの慰問ボランティアを随時受け入れている。 ・外出時の事故予防のため必要に応じ警察と連携を図っている。		・今後は高杉地区の社会資源をより活用していけるよう協力体制を整えていきたい。
38 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・ニーズや身体状況の変化に伴い他サービスを利用することが望ましい場合、円滑にサービスが開始出来るようにケアマネジャーやサービス事業所との連絡を密にしている。		
39 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・運営推進会議の場でご意見を求める事はあるが、具体的なケースに関してはまだ協働した実績は無い。		・北部地域包括支援センターが近隣にあるというメリットを活かし、ご協力いただく機会を増やしていきたい。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入所以前に利用していた病院・ホームの協力病院などの中から本人や家族の選択に基づき決定して頂いている。		
41 認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・協力病院の医師から日常的に認知症についての助言や相談を受けられるよう体制を整えている。 ・認知症の症状が進行した場合、主治医と相談の上専門の病院に通院出来るよう支援している。		
42 看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・医療連携加算に係る正看護師に利用者の健康管理について日常的に相談している。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・入院先の病院に定期的に面会に出向き情報収集に当たっている。また、担当医や家族と協力しながら早期退院に向けた支援を行っている。 ・ホームと病院との間でいつでも連携が取れる体制を整えている。。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・重度化した場合、主治医・管理者・家族と協議し今後の方針を打ち出している。必要であればケアマネジャーも交え終末期の他サービス利用も視野に入れ検討している。		
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援  重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・医学的管理が常時必要になった場合、近隣の有料老人ホームに転居して頂き、訪問看護を利用出来るよう支援している。 ・急性期の医療処置が必要になった場合は、主治医に連絡の上、医療機関への入院となると想定している。穏やかに重度化した場合は、本人や家族の意向も十分把握しながらグループホーム内で対応出来ることを検討・準備している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46 住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・転居先に必要な情報を提供している他、サービス担当者間での引き継ぎを行っている。可能な限り転居先へはホーム職員が同行し不安の解消に努めている。		
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
47 プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・サービスの申し送りや掲示は、氏名を用いず部屋番号を用いて外部から個人を特定出来ないよう配慮している。利用者の個人的な事情については守秘義務を徹底し、共有空間で話題にしないよう心掛けている。また、記録を書く場所にも配慮している。		
48 利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・服装、おやつ、買い物、催し物への参加、その他の活動場面において、自己決定・自己選択が出来るように支援している。		
49 日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・入浴順・食事時間・行事参加・その他の生活場面において、個々の生活ペースに合わせた柔軟な対応を心掛けている。		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
50 身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・理容・美容については、近隣の美容院に月1回来所して頂いているが、その他個々の希望に応じて行きつけの店を利用出来るよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・一人一人の持てる力を発揮出来るよう料理の味見・盛り付け・食器洗い等を担当して頂き、職員と利用者が共同作業で食事の準備や片付けを行うよう支援している。		
52 本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・定期的に利用者から希望を聞いて嗜好品の買い出しを行っている。 ・喫煙は時間や場所を決めて提供している。酒類の提供は行っていない。(代替品で対応。)		
53 気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・排泄ノート、あるいは排泄表を活用して一人一人の排泄パターンを把握している。 ・宿便が3日を越えないよう、飲水・運動・下剤の内服の支援を行っている。		・乳酸菌飲料の提供が宿便予防に効果的であった。今後も継続していきたい。
54 入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴順は個々の湯温の好みや人間関係に沿うようになっている。ただし、実施日や時間帯についてはあらかじめ決めてある。体が汚れた場合など随時対応で行う場合もある。		・近隣の老人福祉センターの温泉を利用したいと言う利用者の声もある。実現出来る方法を模索したい。
55 安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・日中活動的に過ごすことで夜間良眠出来るよう支援している。夜間不眠が常態化している方については、医師と相談し眠剤を処方して頂いている。 ・日中の傾眠が著しい場合は、時間を決めて昼寝時間を取って頂いている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・朝の清掃、午後のゴミ捨て、食器洗い、洗濯物たたみ、針仕事など個々の力に応じた役割分担がある。 ・趣味の園芸、将棋、手工芸、音楽などの支援を行っている。		


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・自己管理が可能な方は、お小遣いを居室に置いて頂いている。物盗られの訴えや利用者間の金銭トラブルが発生しないよう必要額を相談しながら決めている。所持金を適切に使用出来るよう買い物などの支援を行っている。		
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・買い物、外食、帰宅願望時の対応、外気浴、散歩など、随時外出に関わる支援を行っている。		・台数に限りがある公用車を上手に運用し、サービスを低下させないよう心掛けたい。 ・外出に関し、家族の支援を仰ぐなどの方法を検討したい。
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・年間行事の中に観桜会、外食・ショッピングデイなどが有り利用者同士で普段行けない所に出掛けている。 ・個別外出については、公用車の運用上、あるいは人員上の理由により、減少傾向にある。		・同上
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話を自ら掛けたいという方には、小銭を用意しておいたり、番号のメモを渡したりするなどの支援を行っている。 ・自分で行えない方には、手紙の代筆や代読・電話を代わりにかけるなどの支援を行っている。		
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・面会の方は、居室に案内して椅子とお茶を勧め、ゆっくりと過ごして頂けるよう気配りをしている。 ・利用者の馴染みの人達を職員も把握しておき、気軽に訪問して頂くようお願いしている。		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束は行っていない。 ・本人や他の利用者の安全上やむを得ない場合や他に方法が無い場合は家族の了解のもと、目的や期間を明らかにして文書を取り交わした上行うよう取り決めてある。解除の時期については、定期的に(少なくとも3ヶ月以内に1回)カンファレンスにて検討するよう定めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・プライバシーの確保のため、希望のあった利用者に関しては居室に鍵を設置している。 ・玄関に施錠する事の弊害は理解しているが、職員の員数や時間帯によっては施錠を行っている。		・帰宅願望のある利用者には可能な限り個別外出などの対応をし施錠しなくても良いよう努めている。施錠する時間を出来るだけ減らし、開放的なホームを目指していきたい。
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・プライバシーに配慮しながら、さりげなく様子観察している。居室で過ごす事の多い利用者については、おやつ提供などのタイミングで訪室し、安否を確認している。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・刃物については、本人の能力を勘案した上希望者のみ自己管理をしている。その場合、保管場所や形状を職員が把握するようにしている。 ・薬品は、外用薬を除き原則職員管理としている。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・事故や緊急時の対応についてマニュアルや資料を整備している。 ・職員の交代などで、知識やスキルが現場に根付きにくい場合、研修の機会を増やしていく必要がある。		・テーマ別学習会を行う機会を増やしたい。可能であれば有識者に指導してもらおう場を設けたい。
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・医療連携加算に係る看護師から定期的に指導を受けている。 ・事故防止のための取り組みと同様、研修機会を増やしていくことが望まれる。		・テーマ別学習会を行う機会を増やし、医療スタッフに指導してもらおう場を設けたい。
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけをしている	・夜間想定を含め一年に2回避難訓練を実施している。 ・地域の人々への協力呼びかけは行えていない。		・法人関連施設間での連携体制は整えてあるが、地域との協力体制は十分整備されていない。ゆくゆくは地域の人々の支援を受けられる体制を作っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
71	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
72	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
73	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・感染症マニュアルを作成し、予防に努めている。 ・利用者・職員問わず手洗いうがいを励行している。 また、タオルや食器は使用の都度消毒している。		・新型インフルエンザの動向に注視している。受付に消毒液とマスクを設置し、家族やお客様へ予防への理解を求めている。
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・調理用具は、使用の度にハイター消毒している。 ・食材は冷蔵庫に保管し、賞味期限を守りながら管理している。 ・利用者・職員を問わず調理時手指の消毒を行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・玄関や共有空間に花瓶などの飾り付けをし、家庭的な雰囲気近づける工夫をしている。 ・建物の周囲に草花のプランターなどを設置し、親しみやすい雰囲気を出すよう努めている。		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・外気や自然光を調節して季節感のある居心地の良い空間になるよう心掛けている。また、テレビの音などが大きくなり過ぎないように適宜調節している。		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・共有スペースがホールとテラスに限定されており、おとなしい利用者が気の強い利用者からの干渉を受けやすいため対応に苦慮していたが、ソファを設けることでいくらか改善された。		・気のあった利用者同士で気兼ねなく談話出来るよう今後も居場所の工夫に努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
81	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
82	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
83	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
84	<p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		<p>・ホール以外で過ごせる空間が他にあればなお良い。</p>

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・グループホームさくらは豊かな自然の中、四季の変化を感じながら落ちついて生活出来る恵まれた環境を持っています。私達職員はその長所を活かし、地域と手を携えながら、それぞれの利用者がその人らしい生活を営めるよう日々努力しています。